

はじめに

大正9年（1920年）6月1日、置戸村から分村、独立し、「訓子府村」が誕生しました。令和2年（2020年）に「開町100周年」を迎えました。併せて昭和26年（1951年）に町制を施行してから70年になります。

分村は、明治30年（1897年）に高知県からの北光社移民団が、未開の原野に開拓の鍬を下ろしてから23年が経過していました。開拓先駆者の宿願が実現したときです。

分村当時の村の総戸数1,146戸、人口6,592人。村の予算は、歳入歳出各3万7,246円の規模でした。この予算額を令和元年に換算すると約1,600万円（日本銀行調査統計局企業物価指数から計算）となります。価格上昇率の「モノサシ」として何を使うかで計算の結果は変わります。令和2年度当初の本町の全会計予算が約62億円という数字を見ると、分村して一自治体になったとはいえ、北海道の管轄下で厳しい財政運営だったことがうかがえます。

「北に光を」求め、また、光を灯すために入植、開拓した先駆者の喜びや苦難の歴史の中で「訓子府村」が誕生。この「独立記念」の村民の喜びは、30年後の昭和25年（1950年）6月15日にさらに大きなものとなり「開村30年記念式典」が盛大に行われました。訓子府村史（昭和26年発刊）に、記念行事について詳細に記述されています。

この「くんねっぷ再発見物語」では、開拓、そして開町（分村）から現在までの節目、節

目の歴史を中心に掲載し、その時代のエピソードなども盛り込んでいます。ページ数の関係からすべての分野の詳細な部分までを網羅している訳ではありませんので、ご了承ください。内容は、6章立てで構成し年代別としていますが、分野によっては章をまたがって広範囲な年代にわたったり、年代が前後している事項もあります。

また、最後に掲載している各種文献、資料等からの引用をはじめ、町民の方からの聞き取りや伝話等により記述することで、町の歴史を振り返り、未来への新たな資料としていきます。

言葉や表現などは分かりやすくし、注釈なども盛り込んでいます。年月日などの数字、人名等、参考文献により記述がさまざまな部分や詳細が不明な部分につきましては、総合的に判断し記述したほか、一部断定しない表現もとらせていただいています。

インタビュー等一部は敬称を付けていますが、基本、敬称を略して記載していますので、ご理解をお願いします。

発刊に当たりまして、町内外から多くの貴重な資料、写真等のご提供があったほか、取材・インタビューへのご協力もいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

多くの資料等は、開基130年の令和8年度（2026年度）に発刊予定の新訓子府町史編さんの参考等として、活用させていただく考えですので、重ねてご理解とご協力をお願いいたします。

